QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得




# INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。




■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

# 戦略的かつ積極的なマーケティングを目指して



（財）日本ハンドボール協会常務理事　木野 実

今年4月よりマーケティング担当常務理事として業務にあたっております。前任の石井常務理事が築いてこられた資源を更に強固なものにし、発展していきたいと考えています。

日本ハンドボール協会は2003年よりプロジェクト21をスタートさせ、協会の構造改革を鋭意進めています。ナショナルチームは男子が今年1月久方ぶりに世界選手権大会（チュニジア）出場、女子も今年12月ロシアでの世界大会出場を決めて、上位進出を目指しています。残念ながら期待されたユースは、女子のみの世界大会出場となりました。今後の日本のハンドボールを考えた際にユース、ジュニアの強化で世界の上位にいかないと将来の展望も開かれません。その為にも財政、資金の確保を継続的にしなければなりません。また、ただ単に財政、資金集めだけでなく、如何にハンドボールという競技を含めたコンテンツをスポンサー、ファン、顧客、観客、潜在的競技者に販売していけるかが問われています。

厳しい状況の中、今日まで数々の人脈を通じて多くのスポンサーの皆様より協賛、助成を受けてまいりました。しかし、いつまでも限られた企業スポンサーに寄付金等お願いし、期待することはできません。今後は、如何にハンドボールの価値創造を自らが作り上げ、戦略的かつ積極的にビジネスパートナーを探し、より良い関係づくりを構築していくかが重要になります。そして、ファンの皆様にはいかに満足していただくか、感動を与えられる場が提供できるかにかかっています。

素晴らしいゲームは勿論ですが、会場作り、受け入れ、観戦のサービス等エンターテイメント的要素を取り入れて企画、広報、競技、強化部門とも連携を図っていきたいと思います。今年30回を迎えた日本リーグも多くの斬新な企画でスタートしました。（株）アシックスとの間で2009年までの4年間オフィシャルスポンサー契約する事も出来ました。肖像権問題もＪＯＣから緩和されたのを機に整備が急がれます。日本協会独自の大会企画、ナショナルチームが世界に羽ばたける支援と全国展開している小学生チームのサポート等、子供たちに夢と希望を持っていただけるハンドボールの魅力を構築しつつ、スポンサーパッケージを最大限活かしたマーケティング展開をしていきます。

多くの皆様からご支援、ご助言を頂きながら傾注いたす所存ですので、よろしくお願い致します。

## 株式会社アシックスとオフィシャルスポンサー契約

株式会社アシックス（本社:神戸市、社長:和田清美）と（財）日本ハンドボール協会は男子および女子の各ナショナルチームの選手をはじめ、監督、コーチなどのスタッフが使用するウェアやシューズなどのスポーツ用品全般を独占的に提供することなどを内容とするオフィシャルスポンサー契約を締結しました。

期間は2005年4月1日から2009年3月31日までで、2008年の北京オリンピックの出場時にも提供されます。また、スポーツ用品を提供するだけでなく、トップ選手やコーチの声を生かした製品を開発するなど、アシックス社と、選手やスタッフが一体となって相互にサポートする内容となっています。



8月30日に開催された記者会見会場（渋谷東武ホテル）で、握手する尾山基アシックス取締役マーケティング統括部統括部長（左から2人目）と渡邊会長、宮崎、樋口両選手。

# 高松宮記念杯 第56回 全国高等学校選手権大会

表記大会は8月1日～7日まで千葉県市川市、佐原市を会場に連日熱戦が繰り広げられました。男子は興南高校（沖縄）、女子は県立洛北高校（京都）の優勝で幕を閉じました。今号では全国高体連、千葉県高体連、男女優勝チームの声をお伝え致します。大会結果は今号22、23ページに掲載致しました。



## 千葉総体を終えて

（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部部長　**栗岩　淳一**

「輝きを胸に　夢をその手に　房総の夏」を大会スローガンに、本年度全国総体は８月１日から７日まで千葉県で開催され、各地の激戦を勝ち抜いた男女各48校は、男子は佐原市市民体育館、女子は市川市国府台体育館を中心にそれぞれ３会場に分かれ、熱戦を繰りひろげました。

男子はベスト４に、興南（沖縄）、県立不来方（岩手）、県立小林工業（宮崎）、開催県の市川（千葉）が勝ち残り、準決勝では興南が不来方に、小林工業は市川にそれぞれ同じく９点差をつけ決勝に進みました。決勝は春の選抜と同じ顔合わせとなり、小林工業は後半15分までフットワークのよい守りから一点を争う展開でしたが、やや足が止まったところで退場者が続き、36対27で興南が春の高校選抜に続き、総体も制しました。

女子はベスト４に、県立陽明（沖縄）、白梅学園（東京）、府立洛北（京都）、開催県の昭和学院（千葉）が残り、準決勝では陽明が白梅学園に２点差、洛北が昭和学院に６点差をつけ決勝に進みました。決勝戦は陽明のリードに洛北が終了間際に追いつき延長の末、洛北が逆転辛勝しました。洛北の組織的な攻守が勝る結果となりましたが、陽明の個人技の高さは見るものを驚かせ、また楽しませてくれました。

大会は大変素晴らしい運営で行われ、準備と運営にご尽力いただいた千葉県教育委員会、千葉県ハンドボール協会の皆様をはじめ、関係各位に対し心から感謝申し上げます。また、千葉県の高校生は「一人一役活動」という形で総体に参加し、炎天下の駐車場係、汗でぬれた床拭き等、多くの生徒さんがそれぞれの担当場所で献身的に大会を支えていただき、お陰で選手も実力を出せたことにお礼を申し上げます。

地元開催者の声



## 記録的猛暑、大汗をかきながらの大会は大成功

千葉県高体連ハンドボール専門委員長　**飯名　剛士**（千葉県立東葛飾高等学校）

「2005　千葉きらめき総体・輝きを胸に　夢をその手に　房総の夏」というスローガンのもと開催されました全国高等学校総合体育大会・高松宮記念杯第56回全日本高等学校ハンドボール選手権大会を、千葉県市川市・佐原市で開催できましたことを大変光栄に思っております。そして、記録的な猛暑の中、大汗をかきながら大会を成功に導いてくださいました皆様方に、心より御礼申し上げます。





写真提供：スポーツイベント社

会場地候補が決まり、５年前の盛岡インターハイから開催に向けて動き始めたわけですが、その時自分は果たして“成功してあたりまえ”という重圧に耐えられるのかどうか不安で仕方ありませんでした。

今回のインターハイは、男子が佐原市、女子が市川市で開催されましたが、県内とはいえ遠方の会場であったため、例年とは違う諸会議等の日程変更があり、多くの役員・チーム関係者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。その後も、ハンドボール競技の総合開会式への出席要請、輸送計画・配宿と課題は山積みになる一方でした。しかし、山口総体で役員として一緒に仕事をさせて頂いた経験と、その際全国高体連の先生方から力強い励


写真提供：スポーツイベント社

ましの声や的確なアドバイスを頂いたおかげで乗り切ることができたと感謝の気持ちが尽きません。

そんな中、自分にはこだわりがありました。それは、「選手にはできる限りの環境を作ってあげたい」ということでした。一つには「試合は全会場松ヤニでやらせてあげたい」ということ。もう一つは「空調をできる限り入れてあげたい」ということでした。当然のことながらそれには行政の協力が必要でした。この点につきまして両市ともに積極的に協力していただき感謝しております。

大会が間近に迫ってきて、どんなに準備万端だと思っていても、後から後から問題や不足が生じてき、事務局はその対応に追われていました。「大きい大会運営になればなるほど、びっくりするようなことが起こる」というのは薄々感じてはいましたが、詰めの段階に入ると、突如「補助員に人気があって定員オーバーです。」「Tシャツギリギリです。」とか「ボランティアの方が梨園やってらっしゃるので提供してくださるそうです。今からでもいいですか？」などという、追い風となるうれしい悲鳴があがりました。

大会期間に入ると、各配置場所での高校生のすばらしい活躍にも助けられて、前日までの事がまるで嘘のように落ち着いていました。事前に行われました役員・補助員の研修会の成果だと思われます。

競技も、息をつかせぬほど白熱した試合となりました。男子は優勝・興南高等学校（沖縄）、準優勝・小林工業高等学校（宮崎）、三位・市川高等学校（千葉）、不来方高等学校（岩手）。女子は優勝・洛北高等学校（京都）、準優勝・陽明高等学校（沖縄）、三位・昭和学院高等学校（千葉）、白梅学園高等学校（東京）。男子は沖縄の超高校級のプレーに魅了され、女子は決勝戦までも延長戦という、ハンドボールの魅力を充分見せてくれた大会であったと思います。そして、主催県である千葉県の代表校、市川高等学校と昭和学院高等学校がアベック銅メダルに輝き、観客も大勢入り、大いに盛り上がった大会だったと喜んでおります。よく、ホーム＆アウェイと言いますが、特にホームの力が大きかったために、それがこの結果を後押しする大きな波として見えたような気がしました。

過去、選手側として経験したインターハイに、裏ではこれほど多くの方々のご苦労があり、努力があり、涙があろうとは思いもよりませんでした。

ある役員は、忘れ物を届けた学校からお礼の葉書が届き、インターハイに携われたことを本当に喜んでいました。またある補助員は、友達ができたので来年のインターハイを応援に行く計画を立てるんだと言っていました。



写真提供：スポーツイベント社

大会を盛り上げ、多くの人々にたくさんの笑顔と思い出を残すことができたのも、地元の教職員・生徒・市職員の方々のおかげでした。猛暑の中で車を誘導した駐車場係、40度近い体育館の中で汗まみれになりながら機敏に行動しコートをきれいにしたコート管理係、緊張した中で正確な記録をしたコート記録係、iモード速報等試合結果を応援者やチームに速報した会場本部記録係、すべての係を書くことはできませんが、地元高校生や一人一役活動で啓発活動から始まり試合期間中の心のこもった活動、そして役員・市職員の気持ちのよい対応と行動力について多くの関係者からお褒めの言葉をいただき、これが大会成功の源なのだと思いました。

大会を終了するにあたり、全国より大会役員としてご協力いただきました（財）日本ハンドボール協会、（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部、各地よりお集まりいただきました審判団の皆様へ御礼申し上げます。

男子優勝チームの声

# 夢にチャレンジ



興南高等学校ハンドボール部監督 黒島 宣昭

高松宮記念杯第56回全日本高等学校選手権大会において、２年ぶり２回目の優勝をすることができ、大変嬉しく思うと同時に、正直な気持ち「ホッ」としました。振り返れば、昨夏、県総体での敗戦から選手と共に「全国総体での優勝」を目標として頑張ってきました。あの敗戦は、私自身はもちろん、選手達にも、大きな大きな飛躍のキッカケとなったものだと思っています。それだけに、この優勝は嬉しさがちがいました。

去年、３月の選抜大会が終わった時点で、関係各位から「史上最強チーム」「三冠間違いない」という声をかけられました。知らず知らずに、とても大きなプレッシャーになっていました。そのことをできるだけ意識せずに、自然体で、技術向上よりも精神面の強化を重点的に置き、夏に向けて指導してきました。２回戦からの出場でありましたが、選手達には、春の優勝が大きな自信につながっていたのか、初戦からいいスタートがきれて、準々決勝までは危なげない試合展開だったと思います。しかし、準決勝・決勝では、気の抜けない試合展開でありました。どう流れが変わるか分からない試合であったと思います。その中で、選手一人一人が、勝負所でのゲーム展開に、集中力を発揮したことが連覇につながったと思います。

最後になりますが、小学校・中学校の指導者の方々が、手塩に賭けて育ててくれた素晴らしい選手達に、めぐり逢えたことにとても感謝しています。県ハンドボール協会はもちろん、学校関係者、さらに父母会やＯＢ会の力強い支援に対してもとても感謝しています。この「感謝の気持ち」を忘れずに、自惚れず、謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力して夢であります「三冠」達成にチャレンジしていきたいと思っています。

男子優勝チームの声

# 優勝の喜び



興南高等学校ハンドボール部主将 石川 出

今年のインターハイは僕達にとって、とても大事な大会でした。それは、昨年、全国選抜大会を優勝しましたが、夏のインターハイでは県予選で敗れて、とても悔しい思いをしたからです。その思いを忘れずに、インターハイ優勝を目標として、この１年間きつい練習に耐えて頑張って来ました。その結果、優勝できたことを嬉しく思います。



写真提供：スポーツイベント社

僕達は、初戦から圧倒的な力を見せつけて、決勝まで勝ち上がることができました。決勝戦は、選抜と同様、宮崎県の小林工業との対戦となりました。決勝ならではの独特なムードと、勝ちにこだわり過ぎて、自分達のリズムに乗れないまま前半を終えました。ハーフタイムの中で、「もっと楽しく

自分達のハンドしよう」と話し合い、後半に臨みました。後半の序盤は、一進一退の攻防が続いたものの、中盤からディフェンスの動きが良くなり、自分達のリズムである守って速攻で得点を取ることができました。終盤では、スカイプレイも飛び出して会場を沸かすこともできました。そして、試合終了の笛が鳴った瞬間は、コート中央に駆け寄り優勝の喜びを爆発させていました。僕は、みんなの喜ぶ顔を見て思わず号泣してしまいました。昨年は悔し涙で終わり、今年は嬉し涙で終わることができて本当に嬉しく思います。また、キャプテンとして、素晴らしいチームメイトにめぐり逢えたことを誇りに思います。

興南高校を応援してくれました皆様、本当に熱い応援ありがとうございました。国体も「優勝」目指します。

女子優勝チームの声

## 「できる」という強い気持ちの裏付け



京都府立洛北高等学校ハンドボール部監督　楠本 繁生



写真提供：スポーツイベント社

この度、千葉県で実施されました全国高等学校総合体育大会で3年ぶり4回目の優勝を達成することができました。このような結果を残すことができましたのも、多くの方々のご協力とご支援、ご声援のたまものと、厚くお礼申し上げます。

今年のチームはあらゆる意味でなかなか結果を残すことができず、選手が自信を持って試合に臨むことができない悪循環の中で、3月の選抜大会は本来のハンドボールができずに不完全燃焼で茨城を後にしました。経験不足からくる単純なミスや消極的プレーを克服するために、数多くの練習試合を経験し、チームの「総合力」の向上を目指しました。

練習ゲームでも対戦チームを仮想し、いかに守り、攻めるかということを常にチームに意識付けをすることで、相手に対する対応力と基本に裏付けされた攻撃力が培えたのではないかと思います。今回、気を抜くことのできないゲームの連続で、ビハインドを克服でき勝利に結びつけることができたのも、「できる」という強い気持ちの裏付けがあったからこそ、洛北本来の勝負所での選手の思いきったプレーやコンビにつながり、接戦を勝ち抜いていける要因になったのではないかと思います。「自信不信」に陥っていた予選までとは別人のようでした。それは、選抜以降、常に快くゲームの相手をしていただいた、多くのチームの皆様のお陰です。改めてお礼申し上げます。

そして、今年部員数が 34 名となり、ベンチ入りできなかった選手は、毎日会場で応援団の先頭となり、素晴らしい応援をしてくれました。このような姿が、チームの「総合力」に結びついたのは間違いありません。「本当にありがとう。」

最後になりましたが、素晴らしい大会運営で支えていただいた多くの方々や、審判員の皆様本当にありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

女子優勝チームの声

## チームの絆、先生との信頼関係で掴んだ優勝



京都府立洛北高等学校ハンドボール部主将　鈴木 麻理子

洛北高校が優勝できたのは、部員 34 名が一つになれたことと、楠本先生が自分たちを暖かく、そして厳しく指導して下さったことにあると思います。優勝候補と言われていた陽明高校に勝てたのも、崩れそうになったチームを立て直しながら深まった絆と、どれほど迷惑を掛けても自分たちを見捨てず指導して下さった先生との信頼関係があったからだと思います。そして、先生を胴上げできた時、これほどの幸せはないと思いました。

# 松井ジャパン、国内デビュー優勝で飾る

早川文司
フリーライター



第10回ヒロシマ国際大会は7月22日から3日間、広島市東区スポーツセンターで開かれ、国内デビューとなった松井ジャパンが3戦全勝で優勝した。最優秀選手には東慶一（湧永製薬）が選ばれた。

大会には日本代表のほかHCコロサ（韓国）、チョコレートボーイズ（エストニア）、チャイニーズタイペイの4チームが参加、1回戦総当たりリーグで行われた。2位はHCコロサ（2勝1敗）、3位はチョコレートボーイズ（1勝2敗）、4位はチャイニーズタイペイ（3敗）。

今号では早川文司氏のレポートで大会の様子を掲載致します。併せて同時開催された、コーチ・レフェリーシンポジウム報告を掲載致します。

## 松井ジャパンが国内で初めてベールを脱ぎ、デビューを飾った

昨年、カタールでのアジア選手権、エジプト遠征、そして今年1月、チュニジアで開かれた世界選手権と海外で力を蓄えてきたナショナルが、待ち焦がれた国内でその姿を披露するチャンスがめぐってきた。

松井監督は今大会に当たって、世界選手権の反省から「機動力を活かしたスピードハンドボールの確立」を挙げた。そして具体的な目標として「得点は31点以上、失点は30点以下」とした。

こうしたキーワードを掲げる裏には、当然ながら長期的にいえば2008年の北京オリンピック出場、短期的には来年の世界選手権アジア予選クリアがある。

## チャイニーズタイペイに44ゴールという大量点で完勝

初戦のチャイニーズタイペイはナショナルチームと言う触れ込みだったが、カテゴリー的にはジュニアクラスのメンバーだった。監督も「若手が多く、チームはまだ熟成していない。経験も少ないので、今回はいろいろなことを学びたい。それを北京オリンピックにつなぐことだ」と話していたが、日本は44ゴールという大量点で完勝した。前田の6得点を最多にCP全員が得点する最高のスタートを切った。

車にたとえれば、この一戦は「エンジンの調子を見極める」と言ったところだった。

## エストニア、韓国に実力を出し切る

第2戦のチョコレートボーイズは新興チームながら、エストニアリーグのチャンピオン。湧永製薬で活躍したブラマニスがリードする若い戦力で固めていた。ブラマニスは「9月からリーグが開幕するので、今は例年ならウェート強化期間。実際は8月からボールを使ったトレーニングに入る。でも、今大会はベストコンディションで戦う準備は出来ている」と話し、初戦は敗れはしたが、HCコロサに5点差だった。しかも後半はイーブンまで肉薄するなど、ブルーノの言葉をある程度、実証する戦いだった。

松井ジャパンがどう受け止めた戦いをするかが、ひとつの焦点だったが、前・後半とも自らのプレーを出し切って快勝した。2試合ともダブルスコアは若い選手には、またとない自信となったはずだ。

予想通り最終戦が全勝対決となったが、ここで日本がどんなプレーで白星を奪うか—今後を占う意味からも重要な戦いだった。

## 仮想・韓国を想定した戦いで松井監督は選手をコートに送り出した

HCコロサには5人のナショナルメンバー、2人の元ナショナルメンバーがいる強豪。朴監督は「5月にナショナルコーチになったし、チーム練習が出来ていない。私の指導法は個人よりもチームとしての戦いを重要視している」と、戦前には控えめな発言をしていたが、東アジアクラブ選手権のチャンピオンとしてのプライドは、かなりのもので、ひそかに「頂点に立ちたい」強い思いが感じられた。

確かに戦いは白熱した。なかでも前半は1点を争う緊迫したゲーム。そこで活躍したのが湧永製薬トリオだった。「3人がいなかったら…」の声が聞こえたくらいに中盤のせめぎあいをトリオが支えた。

東（慶）の得意ミドル、下川の巧みなシュートなどで5連続得点で逆転、一気に上昇ムードに乗せた。だが、最高の殊勲者はベテランGK坪根のファインセーブ連発。この5点連取の間に3本の決定的シュートをはじき返し、リズムを取り戻した。また、その後も7メートルスローを止めての派手なガッツポーズをみせるなど、日本セブンの士気を鼓舞し続けた。やはり「ここ一番」のポイントでのベテランの存在は、大きいと納得させるに十分すぎるほど十分だった。

後半はコロサGKがヒザを傷めるアクシデントもあったが、日本の活動量が徐々にコロサを圧倒。コロサは終盤は戦意喪失、日本は3連続ゴールで勝負を決定づけた。

当然と言えば、その通りの3戦全勝の優勝ではあったが、松井監督の掲げる「スピードハンドボール」が選手の意識の中にじわり、じわり浸透していることは、今回の戦いで十分

に感じられたと言っていいだろう。

「特にこの試合は走り負けるな――を目標に戦った。残り10分切っての勝負と言ったが、いいスパートがかけられた。3分を切ってからでもクイックスタートができた身体、気持ちは期待できる。守りもよかったし、次はもっと早い攻守をみせてくれるだろう」。

**松井監督は目を細めたが、まだまだ納得しているわけではない**

「松井ジャパンは走る――と選手が思っているので、やりやすい」と言うように、確かにそうした方針はチーム内に浸透していることは間違いない。これを今後の合宿でどこまで精度を高め、外国、特にアジア制覇へつないでいくかが最大のテーマである。



開幕前に指揮官が掲げた「31得点以上、30失点以下」をみてみると、今回の平均は36得点、失点21点。HCコロサが28得点とマイナス3得点だが、世界選手権アジア予選となると戦力はもっと均衡してくることが考えられる。このとき、テーマをどうクリアするか。

「個人個人のフィジカルを鍛え、よりいっそうのスピードを求めたい」と試合後に語った松井監督。今回の戦いを見る限り「まだまだ開発途上」の感じながら「光り」が差し込んできたと言える。今後、どのような操縦でもっとたくましいチーム、スピードを増していくか、楽しみは大きく膨らんできた。

**明確な強化指針へ松井ジャパンは立ち止まらない**

まずは来年2月の世界選手権アジア予選をクリアして、06年のアジア大会を経て、いよいよ07年、北京オリンピック予選へスピードアップする。

1988年のソウル大会以来遠去かっているオリンピック。20年ぶりの北京大会出場権獲得へ一歩一歩着実に日本は戦力アップすることを証明した今大会だった。世界選手権で突きつけられた「速攻」の課題へあくなき挑戦を続ける日本。カギは精度のアップである。この明確な強化指針へ松井ジャパンは立ち止まることはない。

## 試合結果

◎第1日（7月22日）

HCコロサ（韓国） 28 [13－8 / 15－15] 23 チョコレートボーイズ（エストニア）

日本 44 [23－8 / 21－14] 22 チャイニーズタイペイ

【日本得点者】前田6、豊田、猪妻各5、松林、香川各4、末松、内田、岩永各3、下川、宮崎、東（俊）、太田各2、東（慶）、永島、中谷各1

◎第2日（7月23日）

日本 36 [18－9 / 18－9] 18 チョコレートボーイズ

【日本得点者】香川6、内田5、松林、豊田各4、東（慶）、宮崎各3、前田、猪妻、岩永各2、下川、永島、中谷、東（俊）、太田各1

HCコロサ 33 [21－11 / 12－16] 27 チャイニーズタイペイ



◎最終日（7月24日）

チョコレートボーイズ 34 [15－11 / 19－19] 30 チャイニーズタイペイ

日本 28 [12－11 / 16－13] 24 HCコロサ

【日本得点者】東（慶）7、松林5、下川、豊田、香川各3、宮崎、永島、猪妻各2、中谷1

全勝で迎えた最終日、日本代表と単独クラブとはいえナショナルプレーヤー5人を擁するHCコロサの一戦は、今後の日韓の戦いを占う上でも重要な試合となった。出だしの固さから両チームともミスから速攻を許し失点、10分まで4－4と決め手のないままロースコアの展開。コロサは19番・張大洙のミドルなどで抜け出そうとするが、日本も東（湧永製薬）の3連打で7－7のイーブン。その後も一進一退の攻防の中、GK坪根（湧永製薬）が7㍍スローやノーマークをことごとくセーブし危機を救い、前半を12－11と日本1点リードで折り返した。

後半に入っても互角の戦い。10分まで17－16と日本リード。日本はディフェンスからのクイックスタートなど素早い攻撃で相手ゴールに迫る。対するコロサも20番・李準熙を中心に多彩なセットで応戦。GK16番・姜一求の好守もあって緊迫したゲーム展開となった。残り10分を切って疲れの見え始めたコロサからエース宮崎（大崎電気）のミドルなどで3点のリード。コロサも粘りをみせたものの、東（湧永製薬）が7得点を挙げる活躍で、そのまま28－24で逃げ切った。

（文責・広島県協会）

# トピックス

## ★集客作戦が大成功

日本を代表する男子・湧永製薬、女子・広島メイプルレッズの２チームを抱える広島にとっての最大の悩みは「集客作戦」だ。今回も早くから「多くのファンを呼び込むために何がポイントか」と関係者は頭をひねった。最終的に出た結論はジュニア教室の開催などを開いて「子どもを呼び込もう」だった。

でも、こればかりは大会が始まってみなければわからない。しかし、初日から教室には多くの子どもたちが詰めかけて大盛況。しかも、最終日にはスタンドはファンがいっぱい。約950人もの観客が日本に大声援を送り、打倒韓国（ＨＣコロサ）を後押しした。関係者はスタンドを見上げながらホッとした表情。「日本リーグでもこのように多くのファンが詰めかけてくれれば」と話していたが、まずは「集客作戦は大成功」だった。




## ★チビッ子も選手と一体

日本では今や各競技でおなじみになった感がある選手入場時でのチビッ子登場。今大会ではジュニア３チームの「未来のハンドボーラー」がつとめた。岩国ドリームブリッジ、安芸高田ハンドボールクラブ、岡山矢掛フレンズの子どもたちが両チームの選手たちと手をつないで胸を張って登場した。

あこがれの選手たちとわずかながらの交流ではあったが



「一生懸命に練習して、将来はこんな晴れ舞台に立ちたい」と瞳を輝かせていた。試合前には一緒に記念写真を撮ったりして夏休み最高の「いい思い出づくり」になったようだ。

## ★ボランティアも運営に一役

大会には多くの人たちの協力が欠かせないが、昨年に続いて広島市スポーツ協会に所属している「広島市スポーツボランティア」の人たちが連日、大活躍し、関係者から感謝された。

大会期間中の広島はまさに猛暑。温度計もうなぎのぼり。しかし、ボランティアの人たちは観客受付や駐車場の整理などで汗だくになりながら大奮闘だった。

３日間交代で総勢60人が活躍したが、この人たちはサッカーＪリーグのサンフレッチェ広島の試合で活躍しているだけに要領はすっかり飲み込んでおり、手馴れたもの。テキパキと担当部署をこなす姿はさすが「ベテラン」だった。こうしたボランティアの働きが大会を成功させる秘けつのひとつでもあるようだ。

## ★メイプルレッズの選手は裏方で奮闘

今回は裏方に徹する――。日本リーグ７連覇中の女王、広島メイプルレッズの選手たちはいつものことながらＶＩＰ接待係りや売店などに分かれ「裏方」として活躍した。全日本実業団選手権を控えていただけに午前中は練習、午後は大会裏方と連日、大忙しながら大役をこなした。

売店では売り上げの集計が大変ながら、そこは日ごろスーパーでレジを担当している選手だけにお手のもの。テキパキ

**《順位表》**

| | 勝点 | 勝数 | 敗数 | 得点 | 失点 | 差 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①日本 | 6 | 3 | 0 | 108 | 64 | 44 |
| ②ＨＣコロサ | 4 | 2 | 1 | 85 | 78 | 7 |
| ③チョコレートボーイズ | 2 | 1 | 2 | 75 | 94 | −19 |
| ④チャイニーズタイペイ | 0 | 0 | 3 | 79 | 111 | −32 |

**《表彰選手》**

■最優秀選手賞
東　慶一（日本＝湧永製薬）
■ベストセブン
ＧＫ　坪根　敏宏（日本＝湧永製薬）
ＣＰ　松林　克明（日本＝大同特殊鋼）
豊田　賢治（日本＝大崎電気）
宮﨑　大輔（日本＝大崎電気）
李　準　熙（ＨＣコロサ＝韓国）
Ｍ・ヌードゥラ（チョコレートボーイズ＝エストニア）
李　政　翰（チャイニーズタイペイ）
■ベストディフェンダー賞
永島　英明（日本＝大崎電気）

**《得点ランキング》**

①李　政　翰（チャイニーズタイペイ）　23点
②ブラマニス（チョコレートボーイズ＝エストニア）　17点
③Ｍ・ヌードゥラ（　〃　）　16点
④李　準　熙（ＨＣコロサ＝韓国）　14点
⑤松林　克明（日本＝大同特殊鋼）　13点
⑤香川　将之（日本＝トヨタ車体）　13点
⑤朴　賛　龍（ＨＣコロサ＝韓国）　13点
⑤鄭　昊　澤（ＨＣコロサ＝韓国）　13点
⑩東　慶一（日本＝湧永製薬）　11点
⑩金　張　文（ＨＣコロサ＝韓国）　11点
⑩Ｖ・ヌードゥラ（チョコレートボーイズ＝エストニア）　11点

と処理して「ベテラン」ぶりをいかんなく発揮していた。

こうした協力に勝利の神様も見捨てはしない。全日本実業団選手権では鮮やかな試合運びで５連覇を達成、好スタートのシーズンとなった。

一方、湧永製薬の中山監督はチョコレートボーイズ（エストニア）のチーム係を担当。湧永の選手は大太鼓を持ち込んでの大応援を展開した。特に最終戦では坪根、下川、東の湧永トリオが大健闘、応援に一際オクターブが上がっていた。



### ★おなじみ選手もお目見え

４チームが争った今大会だが、日本でプレーしたおなじみの顔が見られた。チョコレートボーイズ（エストニア）の主力として活躍するブラマニス選手、ＨＣコロサ（韓国）で指揮官をつとめる朴性立。

ブラマニスは湧永製薬で長い間プレーしただけに広島のファンにはすっかりおなじみ。しかも年齢を感じさせない豪快なシュートを放つなど、３試合でチーム最多の 17 得点をマークする大活躍をした。ゴールを挙げては得意のポーズで観客にアピールするなど古巣でのプレーをすっかり楽しんでいた。

朴監督は大同特殊鋼で活躍した韓国を代表する名選手だったが、今回初めて指揮官としてＵターンした。先の東アジアクラブ選手権では初優勝に導いているだけに、今回も優勝を狙ったが、残念ながら日本に屈した。「勝ちたかったが、残念。でも、もっとチームを強くしたい」。流ちょうな日本語で敗戦にも復活を誓った。

## 平成 17 年度コーチ・レフェリーシンポジウム

# レフェリー・コーチの有意義な交流

A 級審判員　檜﨑　潔（広島経済大学教育支援室）



今回の研修会はレフェリーだけのものではなく、コーチ研修会も兼ねており、互いに意見を交わすことのできた大変有意義なものでした。特に２日目、６つの分科会に分かれて前日のゲームを観察し、各分科会から出された重要な場面について映像を交えながらのディスカッションでは、コーチサイドがオフェンスチームとディフェンスチームそれぞれのコーチとしてベンチにいる場合として意見を出したり、それについてレフェリーが意見を出したりなど、コーチサイドとレフェリーサイドがお互いの見解を出し合いながらディスカッションすることができ、大変有意義な研修の場であった。また、後藤登委員長（審判部国際委員会）より、2005 年 IHF コーチ・チーフレフェリーシンポジウムの報告がなされ、特に既にヨーロッパではスタートしている、ヤングレフェリープロジェクト（YRP）についての報告が非常に興味深かった。また、同じくコーチ部門に参加された、藤本元強化委員より、映像を交えながら報告がなされ、世界のハンドボールのスピード化に我々レフェリーもしっかりついていかなければならないと再確認した。

今回の研修会は、８月１日からの競技規則変更のこともあり、非常に内容の濃い、有意義な研修会でした。サッカー国際審判員である山西博文氏による講演からも良い刺激を受けることができました。また、今回の研修を通して、コーチとレフェリーが共に協力し、ハンドボールが日本でメジャーになるためにも、より魅力的なスポーツになるようにしていくことが重要であると改めて強く感じました。

（編集委員会より：本文中に出てきました山西博文氏の講演要旨は次号に掲載致します。）

強化部便り

# 強化部情報科学専門委員会紹介

（財）日本ハンドボール協会には、その事業推進のために様々な専門委員会があります。その一つに強化部情報科学専門委員会（委員長：田中守）があります。現代のハンドボールの戦いはコート上ばかりでなく、情報戦とも言われています。昨年神戸で行われたオリンピック予選の韓国戦、今年1月の世界選手権でのクロアチア戦善戦の陰で分析班の活動がありました。また、神戸大会後にまとめられた「テクニカルレポート（DVD付き）」は各方面で高い評価を受けています。

今号では、その活動を紹介致します。尚、日本協会内における位置づけに関しましては、機関誌本年6・7合併号（No. 461）を参照下さい。

（編集委員会記）

舎利弗 学（学校法人福島高等学校）

**情報科学専門委員会名簿**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 委員長 | 田中守（福岡大学） | 委　員 | 小笠原一生（産業技術総合研究所） |
| 委　員 | 田村修治（東海大学） | 委　員 | 栗山雅倫（東海大学） |
| 委　員 | 斉藤慎太郎（大同工業大学） | 委　員 | 水上一（筑波大学） |
| 委　員 | 安達隆博（中京大学） | 委　員 | 白井克佳（国立スポーツ科学センター） |
| 委　員 | 浜田琴美（武蔵丘短期大学） | 委　員 | 平岡秀雄（東海大学） |
| 委　員 | 岡本大（国士舘大学） | 委　員 | 舎利弗学（学校法人福島高等学校） |

**情報科学専門委員会（分析班）のこれまでの経緯**

現在、IT化が進む中、各競技、国際的に情報戦略が高度化・多様化してきています。一般的に認知されるところでは、プロ野球のスコアラーなどが上げられます。また、サッカーやラグビーでも専門のスタッフを配置し、戦術分析等の情報戦略を数年前から組織的に取り組んでいます。

一方、ハンドボールでは、それぞれの時代に、ナショナルスタッフや、医科学委員会などが、それぞれの情報戦略活動を行ってきたといえます。それらは他競技団体との比較でみても、実施の方向性や、内容において決して劣るものではないといえました。そのような環境下、分析サポートする組織が、永続的に設けられる必要性が議論され、2001年の東アジア選手権においてナショナル分析スタッフの立ち上げを行ったのが分析班のスタートです。そして、プサンアジア大会、ジャパンカップ2003を経て、2003年9月、アテネオリンピックアジア予選にて本格化を見ました。現在は強化委員会の専門委員会として組織・活動しています。基本方針や具体的活動は以下のとおりです。

**【基本方針】**

①ナショナルチームが活用するための情報を提供する。（日本及び各国の分析・スカウティング活動）

②ナショナルチームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、ナショナルチームの客観的な評価（人的及び活動の方向性）の材料とする。

③調査研究を実施し、選手へのフィードバックによる個人戦術向上及び強化指針の作成に活用する。

補足として、2点目は、これまで体系化できなかった、日本協会主体における、「国際的なテクニカル情報のデータベースのシステム作りと実施」をさしており、同時にチーム活動の客観的評価資料としての情報提供をさしています。

**【具体的活動】**

①情報・展望分析（世界の流れと未来の予測）

②日本チーム分析（問題や課題の抽出・評価）

③スカウティング（対戦国の情報収集・分析）

④テクニカルレポートの作成

国際試合に際して、事前に対戦国の情報収集・分析を行い、その結果を、ナショナルスタッフや選手に提示をしています。また、スタッフ・選手の要望に沿った分析など活動範囲は多岐にわたります。さらにナショナルチームの合宿等に帯同し、トレーニングマッチの撮影・分析や選手へのフィードバックなどを行います。大会期間中は日本及び対戦国のゲームを撮影し、戦術分析などを行います。そして、ナショナルチームのミーティングの資料を作成し、実際のミーティングでは、オペレーターとしてスタッフのサポートをしています。

もう一つ、我々の重要な任務は、年度ごとに、各カテゴリーにおける大会レポートのまとめとして、日本及び対戦国の戦術や技術を分析・評価したテクニカルレポートを作成することです。このテクニカルレポートをはじめとする各種分析レポートを作成し、強化戦略への情報提供をしています。

ナショナルでは、男子でも女子でも分析の貢献は大きいと各方面から好評を得ています。ぜひ今後も分析活動を続け、定着させ、多くの人に賛同を得たいと思います。


集合写真（本年ヒロシマ国際会場にて）

# 〜30回を機にさらなる飛躍を〜

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本リーグが30回を迎え、9月3日に開幕した。男子が1部7チーム、2部4チーム、女子は5チームの戦いである。チーム構成から見れば、少々の寂しさはいかんともしがたい面があるが、これも致し方ないところかもしれない。来シーズンにはまた新たな動きがあるとも聞くが、それはここでは論ずることはやめておきたい。

さて、30回を記念するにふさわしいシーズンの開幕だっだ。男女とも前回の4強が横浜に集結した。男子は初優勝の大崎電気をはじめ大同特殊鋼、湧永製薬、ホンダ、女子が広島メイプルレッズ、オムロン、ソニーセミコンダクタ九州、北國銀行。とくに女子はいきなりメイプルとオムロンが対決する黄金カード。観客も1,300人を超える盛況だった。好ゲームを期待したファンが多かったということだろう。

それにしてもこの開幕ゲームは、どのカードも期待にたがわむ白熱した戦いの連続だった。各チームとも開幕戦のいい緊張感といいスタートを切りたいとの思いが、こうした緊迫感あふれるゲームを演出したといっていいだろう。

ご尽力いただいた関係者の方々もほっとされたことだろう。

思えば30回といえば簡単だが、ここまでの道のりは決して順調ではなかったはずである。とりわけ発足時のご苦労は並大抵ではなかったと推測する。どの競技でもそうだし、何の大会を開催するにしても同じことがいえると思う。

ところで先日、遅まきながら各チームのホームページをのぞいてみた。いやはや驚きというか、楽しいというか。それぞれがさまざまな趣向を凝らしているではないか。ついうれしくなって時間を忘れ長時間“見とれて”しまった。

こうした取り組みがファン層の拡大につながってくるのは今のご時勢では間違いないところだろうし、今後ももっともっと楽しいホームページづくりを期待している。

記録といえば、過去3度にわたって発行されている記録集は大いに役立たせてもらっている。これも日本協会のリーグに対する情熱の一端であろう。4度目の30周年記念号の発刊が待ち遠しい次第だ。

実は以前から広島県協会は地元ファン用にローカルプログラムを制作、発行している。今回ももちろん制作したが、30年という節目のリーグということで、地元チームの湧永製薬、広島メイプルレッズの過去の試合データを組み込んだ。

このデータづくりにも、記念記録集を大いに活用させてもらった。もし、こうしたまとまったものがなかったらもっとはん雑な作業になっていたことは、容易に想像できる。そういう意味でも、大変ありがたく感謝にたえない。

スポーツにとっては「記録」は重要な要素である。シーズンごとの記録もあれば、積み重ねて貴重な記録を作ることもある。とにかくデータなくしてはスポーツは語れないのではないかと思っている。いくらＩＴ時代といえども資料がなくてはどうしようもできないことは明らかだ。そうしたことからでも、今後も記録収集作業はリーグにとっても、日本球界にとっても最大級の重要テーマであることは間違いない。

もうひとつのヒット商品が「週刊・JHLニュース」だ。78年6月にスタートしたということだが、毎週の作業は大変だろう。また、近年はパソコンでも配信されており、こちらも大助かりである。

こうした流れを受けて「紙の資料は必要ない」との声も聞く。だが、そうだろうか。こちらはこちらでいくら時代が変わったといえども、必要欠くべからざるものではなかろうか。コンピュターが手元にあればいいが、そうでない状況もある。どうしても「共存共栄」が必要ではないだろうか。

それはともかく、この30年という歴史は日本ハンドボール界にとっては輝かしい。今後ともさらに発展させていかなくてはならないことは、皆さんの一致した意見であろう。どのように発展させていくか。それは各チーム、選手の踏ん張りが最高の材料である。そうしたことがオリンピックにつながり、世界につながるはずだ。30年を機にいっそうの飛躍を目指そう。

asics

# 俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

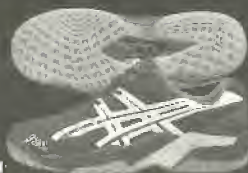
ゲルブレイブ
**GELBRAVE WIDE**

**THH513 ¥12,600**(本体¥12,000)

カラー：0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト

サイズ：23.0〜29.0・30.0cm


0490


5001

株式会社アシックス


アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。

http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

平成 17 年 7 月 27 日

# 2005年 競技規則変更：各項目の解説②

（財）日本ハンドボール協会 競技本部　審判部・競技運営部

レフェリーは 3 欄すべてに必ず目を通すこと。マッチバイザーとタイムキーパー・スコアラーは、レフェリーの欄にも目を通すこと。
（※ただし、全項目に 3 欄あるとは限らない）

11. 外から見えるピアスについては条文中に特記し、イヤリングや突起のない指輪と同類のものとして位置付けた。他のプレーヤーに危険を及ぼさないようにテープ等で被えば、ピアスをしてもよいという意味である。外から見えない（ユニホームの下や口の中の）ピアスについては規制していない。

| コーチとプレーヤー |
| --- |
| チーム役員は自チームのプレーヤーに注意を促してチェックする責務を負う。 |
| **レフェリー** |
| 競技中に発生する問題が最小限に留まるよう、競技前やウォーミングアップ中によく観察しておく。<br>競技中に問題が発覚した場合、これを正すためにそのプレーヤーをコートから出さなければならない。通常、競技が中断したとき、あるいは可能ならば競技中にコートから出させるべきである。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| 競技中、オフィシャル席は監視してレフェリーを手助けする。 |

12. 正式なチームキャプテン（つまり、腕章によって識別され、競技に先立って行われるコイントスへの参加を要請されるプレーヤー）の存在は今後も認めるが、もはや必須ではなくなった。チームにキャプテンがいてもいなくても、プレーヤー・チーム役員の任意の者がチーム代表者としてコイントスに参加できる。

| コーチとプレーヤー |
| --- |
| 従来どおり、レフェリーやオフィシャル席とコンタクトを取ることが許されているのは「チーム責任者」である。チームに公式または非公式のキャプテンを置くことを禁止しているのではなく、置かなくてもよいのである。チームは精神面での効果を期待してキャプテンを置いてもよいが、レフェリーやオフィシャル席に関与する任務はない。 |
| **レフェリー** |
| コイントスの方法は変えていない。各チームからコイントスに参加する人を出すようチーム責任者に依頼し、そして選出された人を承認する。 |

13. 記録用紙に記載されていないプレーヤーや参加資格のないプレーヤーが競技に参加した場合、チーム責任者に段階罰を適用することになる。このプレーヤーに段階罰を適用する場合は、別の方法で違反をしたとき、つまり不正交代のとき、8 人目のプレーヤーとしてコートに入ったとき、コートに入ってから違反をしたときに限られる。

| コーチとプレーヤー |
| --- |
| プレーヤーが競技の開始後に遅れて到着する場合には、チーム責任者は特に注意深く記録用紙を再確認しておくべきである。 |
| **レフェリー** |
| コート上にいるプレーヤーが記録用紙に記載されていないためにオフィシャル席が競技を中断した場合、まず「チーム責任者」に段階罰を適用する。罰則の種類は、同チームの役員がこれまでに適用された罰則によって決定される。原則として相手のフリースローによって競技を再開する。ただし、競技の中断によって相手の明らかな得点チャンスが妨害された場合には 7 m スローを判定する。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| 記録用紙に記載されていない番号のプレーヤーが遅れて到着した、ベンチに座っている、またはコートに入る準備をしている場合、何らかの対処をすべきであるという意味において、オフィシャル席は予防的役割を担っているはずである。記録用紙に記載されていないプレーヤーがコートに入っていると分かった場合、競技を直ちに中断しなければならない。 |

14. 競技の開始後は、競技への参加資格のあるプレーヤー・チーム役員以外の者が交代地域に入らないよう、チーム責任者が管理しなければならない。いかなる違反に対しても、チーム責任者に段階罰を適用することになる。

| コーチとプレーヤー |
| --- |
| 「チーム責任者」（またはその代わりを務めるチーム役員）は競技の初めから終わりまで、これを監視しなければならない。 |
| **レフェリー** |
| 前項の内容と同じ |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| あらゆる問題を未然に防止できるよう、競技の開始前にデレゲートとオフィシャル席は両交代地域をチェックしなければならない。 |

15. 負傷したプレーヤーを救護するために許可されてコートに入場したはずのチーム役員（またはプレーヤー）が、コート上で自チームのプレーヤーへの指示に専心したり、相手チームのプレーヤーやレフェリーに言い寄ったりした場合は、スポーツマンシップに反する行為として罰則を適用できると明記した。

| コーチとプレーヤー |
| --- |
| 入場した者は、負傷した自チームのプレーヤーの救護に専念するよう特に注意しなければならない。負傷したプレーヤーと関わった相手プレーヤーやレフェリーを非難する機会を得ようとしているかもしれないが、この行為は厳しく禁止されている。 |
| **レフェリー** |
| 心情を理解できる場面では、レフェリーは特にその予防に努めるべきである。禁止行為の兆候が少しでも現れたら、言葉とジェスチャーで確実に思いとどまらせなければならない。このメッセージを聞き入れないで不適切な行為をした場合は、この時点で罰則の適用となる。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| オフィシャル席の任務は余計な者がコートに入らないよう |

努めることと、これでもなお違反が起こった場合にはレフェリーに知らせることである。デレゲートがレフェリーを補佐する必要があると判断した場合を除いて、コート上における不適切な行為に対して直接的に関与する任務はない。しかし、その場合でも予防に努めなければならない。

16. 悪意のない目的のために、かつ有利にもならない状況で、プレーヤーが交代ラインの範囲外のサイドラインを通ってコートから出ても、スポーツマンシップに反する行為や不正交代と見なしてはならないと明記した。プレーヤーが水分補給やタオル使用のためにベンチに戻る（ゴールの後方に出る）場合や、退場となったときに潔くベンチに向かったが交代ラインの範囲外のサイドラインを通って戻った場合などが、例として挙がる。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 不正交代と誤解される危険性があるので、今なお、コートから極力出ないようにして水分を補給したりタオルを使ったりすべきであろう。 |
| **レフェリー** |
| この種の無害な行為に対して神経をとがらせるべきではない。例えば、退場となったプレーヤーが潔くコートから出ていくとき、そのプレーヤーが交代ラインの終わりを示す15 cmラインの外側を通ってベンチに戻っても、気にかける必要は全くない。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| オフィシャル席は不正交代や不正入場という本来のケースに注意を払わなければならない。同様に、無害な行為をスポーツマンシップに反する行為と解釈してはならない。 |

17. プレーヤーとチーム役員の行動を監視するというレフェリーの任務は、競技会場に到着したときから始まる。もし競技中であれば罰則を適用するであろうと思われる行動を、競技の開始前に起こした場合にも、罰則を適用しなければならない。罰則は警告か失格のいずれかである。しかし、このような場合、その違反をした者が競技に参加するかどうか、レフェリーにはよく分からないときがある。極端な場合には、競技を開始してから初めて気付くことがある。このような場合には、発覚した時点で罰則を適用することになる。競技の開始前に失格を適用していれば2分間退場を伴わないケースなので、遡及して失格を適用した場合も2分間退場を伴わない。競技の開始前に違反をしたプレーヤーやチーム役員（または別のチーム役員）が競技の開始後に別件で既に警告となっている場合、競技の開始前の出来事に対して適用するはずであった警告を遡って適用してはならない。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 罰則を適用されないだろうという誤った思い込みが特に理由となっているのかもしれないが、競技の開始前に問題を起こさないよう、プレーヤーとチーム役員に対して助言する。 |
| **レフェリー** |
| レフェリーが競技の開始前にある人物から不当行為を受けた場合、その人物が競技に参加するプレーヤーやチーム役員なのかどうかを競技の開始前に確認できるよう、全力を尽くすべきである。そうすれば競技の開始前に罰則の適用を済ませてしまうことができる。失格となったときでも、チームは他のメンバーと入替えできるケースも出てくる。 |

18. スローを行うプレーヤーやその味方のプレーヤーの違反が、各種スローを行う前にあった場合、再開の笛なしにスローを行っている間にあった場合、再開の笛の後にスローを行っている間にあった場合の3つに分けて、最新の考え方を第15条に記載した。最後の場合、スローを行うチームは通常ボールの所持を失うことになる。他の場合は、原則として違反を正してから再度スローを行わせる。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 競技の再開の笛に注意を払い、このような場合には危険を冒さないようにする。スローオフの場合を除いて、笛が鳴ってからボールを離すまでの動作に気をつけなければならない。 |
| **レフェリー** |
| 笛を吹いたか吹いていなかったかを、必ずしっかりと判断してから判定する。笛を吹いていない状況で、違反してスローを行った直後にボールの所持を失った場合、そのまま競技を続行する。 |

19. ラインを踏み越えたり滑り越えたりしないようにという配慮に関連して、7mスローを行うプレーヤーは7mラインの後方1mまでの範囲で位置を取る権利があると明記した。この規定は他のプレーヤーの位置取りに影響を及ぼさない。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 横方向の余地はない。つまりスローを行うプレーヤーは長さ1mのラインの真後ろの範囲（1辺の長さが1mの正方形の中）に基準足を置かなければならない。 |
| **レフェリー** |
| 従来どおり、ジャンプスローには注意を払う。 |

20. スローオフやスローイン、フリースロー、7mスローを行ったプレーヤーは、ボールがたとえ他のプレーヤーに触れていなくても、相手のゴールポストやクロスバーに当たれば、再びボールに触れることができると条文で謳ってきた。ゴールキーパースローについてはこれに対応するコメントの記載が抜けていた。今回、何名かのゴールキーパーから質問があったため、ゴールキーパースローを行った後、稀なケースではあるけれども相手のゴールに当たって跳ね返ってきたボールをゴールキーパーが触ってもよいと明記した。

21. 基本となる競技規則書では12名以下としていたにもかかわらず、何年もの間IHF 主催の競技会では14名以下としてきた。多数の各国協会においても、治外法権を上手く活用して、幾つかの競技会またはすべての競技会でこのようにしてきた。試行の結果が良好だったので、今回は基本となる競技規則書の記載を変更することにした。

以上が2005年8月1日から新たに施行される競技規則の変更点である。しかし、2002年から2004年の間に通達してきた幾つかの変更点については、旧版の競技規則書には掲載されていない。コーチ／プレーヤー、レフェリー、デレゲート／オフィシャルはこれについても精通しているべきであり、いくつかについては以下に再び解説して注意を促した。2005年版競技規則書において競技規則の変更はないものの修正した条文が数ヶ所あり、これまでに質問のあった点について以下に解説した。

22. 2001年以降、ゴールキーパースローの定義を変更し、ゴールエリア内でゴールキーパーが単にボールをキャッチするか拾い上げる状況も含めるようにした。そして、ゴールキーパーがボールをコントロールしている間は競技の中断中であると強調してきた。ボールはゴールキーパーのチームのもので

あり、他のプレーヤーは誰もボールに触れることができない。この最後の文章は、ボールがゴールエリア内に止まっている場合や転がっている場合にも適用される。しかし、ボールがゴールエリア内で転がっている場合は競技中であり、止まった時点で競技の中断中となる。このことは、実際のところ重要ではない。しかし、まさにこのような瞬間にゴールキーパーのチームが違反すれば違いが生じてくる。それが競技の中断中であれば、ゴールキーパースローを行って競技を再開しなければならないし、競技中であればボールの所持を失うことになり、およその場合に相手がフリースローを行うことになる。

| レフェリー |
|---|
| ゴールキーパーのチームにおける不正交代を合図する笛がオフィシャル席から鳴ったとき、競技の再開方法の異なる「競技中」と「競技の中断中」のいずれの瞬間に笛が鳴ったのかを正確に判断しなければならない。ゴールキーパーの味方のプレーヤーがスポーツマンシップに反する行為をしてレフェリーが笛を吹いた場合も同様である。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| 特にオフィシャル席が主導して競技を中断した場合は、笛の瞬間にボールがあった正確な位置（床の上、またはゴールキーパーの手中）を確認し、レフェリーを手助けできなければならない。 |

23. 新しい解釈ではないが、2 分間退場となった直後（またはその最中）やコート上のプレーヤーを 2 分間減らすような罰則を受けたときに、そのプレーヤーが暴力行為によって追放となった場合の処置を正確に明記した。このような場合、退場やコート上のプレーヤーを減らす罰則を追放の処分の中に含めてしまい、チームは競技の残り時間すべてを 1 名少ない状態でプレーすることになるだけである。

| レフェリー |
|---|
| 前の罰則の影響は帳消しになることを明確に示さなければならない。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| 前の罰則は記録用紙に記入するが、公示時計やカードに表示される入場（退場満了）時間を変更しなければならず、その後は「残りの競技時間は 1 名減らした状態」と表示する。 |

24. 床に膝をついて、座って、あるいは横たわってボールを扱うことは許されてきた。しかし、各種スローの実施に際して「スローを行うプレーヤーは片足の一部を終始、床につけていなければならない」という条件があるために、「床に膝をついて、座って、あるいは横たわって各種スローを実施してもよい」かどうかが不明確になっている。条件さえ満たしていれば、このようなスローを禁止する条項はない、というのが答えである。典型的には、プレーヤーが恐らくは違反によって倒され、起き上がる前に少しでも早くフリースローを行えばチャンスがあると判断したときに関係するであろう。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| このような機会を活用できるのは、プレーヤーがすでに床に倒れているときだけである。プレーヤーが横になってこのような態勢で 7 m スローを行うことを思いついたとしても、スポーツマンシップに反する行為として罰則を適用されることになるであろう。 |

| レフェリー |
|---|
| このような状況は瞬時に起こるため、レフェリーはプレーヤーが基本的に正しい位置にいて、スローの間は足も床につけていたことを確認するのがやっとであろう。 |

25. 決して、笛を吹いて妨害する観衆の思惑どおりにさせてはならない。同様に、決定的な瞬間に（停電などの）不可抗力でチームが不利益を被らないようにしなければならない。したがって、様々な外的影響により競技を中断せざるを得ない状況において、そのときに存在していた明らかな得点チャンスが消滅してしまった場合、競技規則 14：1c を拡大解釈してレフェリーが 7 m スローを判定できるようにした。しかし、反対の状況に対しても同様に適用する。すなわち、防御側プレーヤーが無関係な笛に騙されて、そうでなければ生まれるはずのない明らかな得点チャンスが生まれて、競技を中断しなければならない場合である。攻撃側チームと防御側チームを対等に扱わなければならない。

| レフェリー |
|---|
| レフェリーは、すべてのプレーヤーの位置を考慮に入れて、明らかな得点チャンスが存在したと確信しなければならない。無関係な笛があったためにプレーヤーが攻撃動作を止めてしまった場合、疑わしい点をプレーヤーに有利に解釈してやらなければならない。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| プレーヤーに動作を止めさせるような笛の音がレフェリーにはっきりと聞こえなかった可能性のある場合、オフィシャル席は自分たちの観察事実に基づいてレフェリーを手助けしなければならない。 |

26. チーム役員やプレーヤーは競技の終了までに、承諾を得ずに交代地域から去ることができる。しかし、観衆の中や他の場所にいても、レフェリーの管理下から逃れたわけではない。いかなる不法行為も罰則の対象となる。さらに、チーム役員が交代地域を無断で去った場合、チームを管理し指導する権利を失う。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 絶対に必要でない限りは、チーム役員もプレーヤーも交代地域を離れるべきではない。もはや参加できなくなったプレーヤーがどこか他のところに腰を下ろしたいと思った場合、コートから出ていくときやその移動先において不当行為のいかなる兆候・誇示も許されない。 |
| **レフェリー** |
| チーム役員の誰かが不当な場所からチームに戦術を与えようとしたり、いかなる場所においてもプレーヤーやチーム役員が不当な態度を示したりした場合には、レフェリーは適切に対処しなければならない。このような場合に、レフェリーはその人物に罰則を適用するために交代地域に戻るよう促さなければならない。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| 誰かが他の場所に移動した場合には、デレゲートとオフィシャル席は注目をし、不適切な行為の兆候が少しでもあればレフェリーに伝えて主に手助けをする。「チーム責任者」とコンタクトを取っても解決しない場合は、必ずレフェリーに知らせなければならない。 |

27. プレーヤーはコート周囲の領域を戦術的に使用してはならない。サイドライン付近にいる防御側プレーヤーをかわすためにプレーヤーがサイドラインの外側を走り、ドリブルをするスペースとして利用することはできない。このような場合はフリースローを判定する。加速するための助走スペースを確保しようとして、サイドラインの外側でボールを待つこともできない。このような場合には、プレーヤーにコート内に戻るよう伝える。これを拒否したり再びこのような状態になったりしたときには、フリースローを判定する。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 他に悪影響を与えずにコートから出る場合（16 参照）や勢い余って止まれなかった場合と、有利になるために故意にコート外に出る場合とでは、両者に大きな相違がある。問題が生じないようにするため、サイドラインに沿って取った位置をよく確認する。レフェリーの指示に従うよう念を押しておく。 |
| **レフェリー** |
| プレーヤーが止まれずにサイドラインを越えてしまった場合と、サイドラインの外側でボールをコントロールしながら走ったりボールを待ったりする計算尽くの場合を、明確に区別しなければならない。後者の場合には、はっきりとジェスチャーを示して（または声を出して）プレーヤーに知らせ、理解させる。大切なことは未然に防ぐことである。 |

28. パッシブプレーの予告合図の方法に関して、ここ数年の間に細かく修正してきた。（ボールを所持しているチームがフリースローを得ようとも）攻撃が終了するか合図が無効になるまで予告合図をし続ける。防御側チームのプレーヤーやチーム役員に段階罰を適用した場合、あるいは打ったシュートがゴールかゴールキーパーに当たって跳ね返り、攻撃側がボールを再び所持した（リバウンドボールを手にした、あるいはスローインを得た）場合に、その合図は無効になる。このような場合、ボールを所持したチームは新たに組立て局面から攻撃展開する機会を得る。

各種スローの実施に際して遅延がある場合、パッシブプレーの一形態として見なすということも強調しておく。これは、スローオフやゴールキーパースロー、フリースローを行うときに典型的な遅延行為が生じる。このような兆候が初めて見られた場合にレフェリーは注意を与えなければならないが、以降すべてのケースについては直ちにパッシブプレーの予告合図を出さなければならない。注意や予告合図ではなく、タイムアウトがより急務で適切というような状況（競技時間や得点）の場合は例外である。

| コーチとプレーヤー |
|---|
| 予告合図について熟知しておくと、攻撃側としても防御側としてもこれを有効に活用できる。<br>スローオフやフリースローは安心して時間を浪費できるチャンスであると誤解しない。でないと、即座に出されるパッシブプレーの予告合図によって、大きなプレッシャーを感じることになる。 |
| **レフェリー** |
| 予告合図が無効となる状況に的確に反応して腕を下ろし、これによってチームは新たな組立て局面から攻撃展開する機会を得る。<br>予告合図を出した後に次の段階の準備が整ったとき、適切な瞬間を確実に選ぶ。チームが最終的にシュートを打とうとしているその瞬間に、フリースローの判定をしない。<br>典型的な例としては接戦のゲームの終盤においてであるが、1 秒単位で問題となるようなスローの遅延に対しては、ジェスチャーや予告合図ではなくてタイムアウトを活用する。 |
| **デレゲートとオフィシャル席** |
| パッシブプレーの予告合図が出たときに、チームタイムアウトを請求するという常套手段に対して準備をしておく。グリーンカードが提出される直前に突然ゴールにシュートを放つことの多い瞬間であることも銘記しておく。笛を吹く前に、どちらがボールを所持しているかについて正しく認識しておく。 |

29. 7ｍスローコンテストを実施するとき、両チームは 3 名ずつのシューターを選出し、交互にシュートを各々 1 投ずつ行う（先投・後投はコイントスにより決定）。ゴールキーパーはその都度交代してもよいし、シューターとゴールキーパーを兼ねてもよい。これで勝敗が決まらなかった場合、両チームは再度 3 名ずつのシューター（前回のメンバーと何名重複してもよい）を選出し、交互にシュートを 1 投ずつ行って（先投・後投は前回の反対）サドンデス方式で勝敗を競う。勝敗が決するまで、この（3 名ずつを 1 度に選出する）方式を続ける。なお、競技時間の終了時点で退場中、および既に失格・追放となったプレーヤーは 7ｍスローコンテストに参加できない（従来どおり）。

※ IHF では 5 名ずつとなっているが、日本ハンドボール協会では 3 名ずつで実施する。

連載56

# NTS2005報告

## サマーキャンプ2005 in 栃木：指導者研修の会

NTSコーディネーター　田中　　茂

**今夏、各地においてNTSブロックトレーニングが開催されました。NTSは選手育成システムではありますが、同時に指導者の方々にも研修していただきたく研修会を設けております。今号では8月27、28日に栃木県を会場に行われましたブロックトレーニングでの指導者研修会について報告致します。講義概要として、講義①、②を掲載致します。誌面の関係で全ては掲載できません。今年度は、関東ブロックのみの指導者研修会となりましたが、来年以降各ブロックで開催できるようにしていきたいと思います。**

### 研修内容：

第1日(8月27日)

講義①世界のハンドボールの傾向と日本の課題：藤本　元

講義②現代に求められるハンドボール指導者像：水上　一

講義③現代のGKトレーニングについて：栗山　雅倫

実習①トレーニング研修(見学&ディスカッション)：GKトレーニング

実習②トレーニング研修(見学&ディスカッション)：積極的なDFでの連動

第2日(8月28日)

講義④積極的な要素を持ったDFとそれに対するOFについて：藤本　元

講義⑤ユース世界選手権予選の報告と日本の課題：滝川　一徳

実習③トレーニング研修(見学&ディスカッション)：

積極的なDFに対するバックコートプレーヤーの動き

積極的なDFに対するポストプレーヤーとのコンビネーション

実習④トレーニング研修(見学&ディスカッション)：実戦攻防トレーニング

講義⑥選手に必要な栄養と水分補給について：大塚製薬

講義⑦ゲームの分析について：田村　修治

実習⑤ゲーム分析

講義⑧ゲーム分析に関するディスカッション

**※講師担当者**

水上　一
(NTS関東ブロックスーパーバイザー・NTS委員長・強化委員会委員)

田村　修治
(NTSインストラクター・情報科学委員会分析班リーダー)

滝川　一徳
(NTSインストラクター・男子ナショナルユース・ジュニアコーチ)

栗山　雅倫
(NTSインストラクター・NTS副委員長・強化委員会委員)

藤本　元
(NTS関東ブロックコーディネーター・強化委員会委員)

### 講義概要：

**①世界のハンドボールの傾向と日本の課題：藤本　元**



現代ハンドボールは10。ゲームのスピード化の要因はクイックスタート、パッシブプレーの判定、攻撃側のファールなどによる。2005年の世界選手権は一試合の攻撃回数がスペイン61.0回、クロアチア59.9回、フランス58.9回であり、得点はそれぞれ35.5、31.6、30.1であった。攻撃においては個人の高い能力、2〜3名による密なコンビネーションによる創造性と多様性があげられる。

今後の日本の目指す方向性としては、あらゆる局面で点を取りにゆく得点力の強化、その姿勢の中でチーム及び個人の習熟度の向上が挙げられる。また、強化目標としては①柔軟で予測的・機動的な防御から攻撃への素早い切り替え、②速攻から素早いからの組織的な攻撃、③あらゆる場面でのバリエーションに富んだ組織的な攻撃、④組織的攻撃の中での個人能力の発揮などが挙げられる。

**②現代に求められる指導者像：水上　一**

20年前韓国が上り坂の時代に多くのチームが韓国でトレーニングを行いました。果たして韓国式のトレーニングの効果がどれほどあったでしょうか。そのチームのトレーニングの始めは学ぶ(模倣)ですが、それを「破り」、さらに「独自性」を発揮することで本当の力になるのです。事実、韓国に行ったチームが「スピード化」しなかったのは知られるところです。これは指導者の問題です。指導者にはどの様なハンドボールをしたいのかという「ハンドボール観」が必要です。これはあらゆるレベルでの指導者に当てはまることで、代表チームであっても同様です。

代表チームが強くなり、オリンピック、世界選手権に出場する。そうすればマスコミは取り上げ、社会的認知は上がり、多くの子ども達がハンドボール競技を選び底辺は拡大します。しかしながらそうでしょうか。実際は多くの子ども達が活動し、その多くの中から選び抜かれた代表選手であるから世界で活躍できるのです。



そのためには各地の指導者が選手を育てて代表チームに選手を送ってもらいたい。我々NTSは、選手ばかりでなく指導者の養成も重要だと考えています。良い選手を育てた指導者が代表チームの指揮を執る。選手と同様、指導者もナショナルチームを目指して欲しい。それがNTS強化委員会の方針です。

指導者は、常に探求心を持ち続けて欲しいと思います。そのためには、①新しい情報を取り入れること。インターネットを使えばIHF、ヨーロッパからの情報は容易に手に入れられる時代です。②語学を身につけて欲しい。残念ながら日本のハンドボール情報は遅れているのが現状ですから指導者自身が語学力を駆使する必要があるのです。③進んで講習会、研修会に参加して欲しい。参加すれば必ずや強化へのヒントが得られるはずです。④指導者は考えを柔軟にして欲しい。選手が変われば戦い方も変わる、ハンドボールの戦術パターンは無限にあるのです。

最後に、指導者は選手に夢を与える存在であって欲しいとも思います。頑張りましょう。

# ＮＴＳ体力評価活用の事例

福岡大学:西 剛志(写真左) 明石光史(写真中) 田中守(写真右)



## 目的

ハンドボール競技における体力に関する研究は、全日本選手や大学生を対象としたものが多く、中学生以下のデータや研究は極めて少ない。日本ハンドボール協会は、一貫指導と選手発掘を目的に5年前よりナショナルトレーニングステム（以下、NTS）をスタートさせ、その中で行なった体力測定をもとに、田中らは小学生から高校生までの各県から推薦された選手の体力の分析・評価を行ない、初めての全国統計資料として報告している。しかし、その結果を比較する体力データはほとんどなく、一般選手の目標値としての検討は行われていないのが現状である。

本研究では、中学NTS選手の体力データを評価するための比較データとして、福岡県における一般の中学選手ならびに福岡県中学選抜選手の体力測定を行ない、中学NTS選手の体力的位置づけを明確にすること、今後の中学生の体力的課題を明らかにすることを目的とする。なお、NTS中学データは、2002年NTSブロックトレーニングに参加した選手のデータを参考に作成した。

## 方法

**Ⅰ．対象者**

対象は、平成16年度福岡県中学生選抜選手（選抜）と福岡県大会ベスト8のチームに所属する中学生選手（一般）で、内訳は以下のとおりである。

・選抜選手…男子11名：3年8名、2年2名、1年1名
　　　　　　女子13名：3年9名、2年4名
・一般選手…男子24名：2年13名、1年11名
　　　　　　女子6名：2年4名、1年2名

**Ⅱ．測定項目**

NTSで実施している体力測定項目と同様に、無酸素性パワーとして、走パワーの30m走、跳パワーの立5段跳び、投パワーの長座投げを、筋力として背筋力と握力（左右）の測定を体育館で行った。なお、30m走の測定には光電管を用いて行なった。測定評価基準として、田中の作成した10段階評価表を用い、それぞれの比較を行なった。

## 結果と考察

NTSブロックトレーニングに推薦された選手をセンタートレーニングに推薦した優秀選手とその他の選手に分け、選抜選手と一般中学選手の体力測定項目の平均値ならびに体力測定評価基準表の10段階評価に基づく体力の総合評点50点満点の平均値を表1に示した。NTSに参加した選手は、各県より2～3名の選手であるため技術的に優れるのは当然であるが、形態的・体力的にも優れていることが予想された。

**Ⅰ．優秀選手と選抜選手、一般選手との比較**

**男子**

・選抜選手との比較

身長では、優秀選手が5%水準で有意に大きいが、体重では有意差はみられなかった。また、優秀選手は長座投げと背筋力で有意に高い値を示しており、総合評点においても優秀選手が有意に高い値を示した。

・一般選手との比較

身長は、優秀選手が13.3cm、体重は14.1kg有意に大きく、一般選手とは形態的にかなりの差がみられた。また、運動能力においても優秀選手がすべての項目で大きく上回っている。優秀選手がほとんど3年生であるのに対し、一般選手は1・2年生であるために当然の結果である。

**女子**

・選抜選手との比較

身長では優秀選手が5%水準で、体重では0.1%水準で有意に高かった。運動能力には、ほとんど差がみられなかったが、右手握力においてのみ優秀選手が有意に高く、立5段跳びにおいては選抜選手が有意に高い値を示した。

・一般選手との比較

形態と運動能力のほとんどの項目において優秀選手が有意に高い値を示した。本結果は、男子と同様、当然の結果である。なお、30m走と背筋力、握力の平均値で優秀選手が高い値を示しているが、有意差はみられなかった。

**Ⅱ．その他選手と選抜選手、一般選手との比較**

**男子**

・選抜選手との比較

形態、運動能力、筋力項目のすべてにおいて有意な差はみられなかった。また、平均値においても大きな差はみられなかった。

・一般選手との比較

全ての項目にその他選手が有意に高い値を示した。30m走と右握力で5%水準、背筋力は1%水準、それ以外の項目及び総合評点においては、0.1%水準で有意に高値を示した。

**女子**

・選抜選手との比較

身長には有意な差はみられなかったが、体重においてはその他選手が有意に高い値を示した。運動能力では、立5段跳びにおいて選抜選手が0.1%水準で有意に高く、30m走と長座投げにおいては有意差がみられなかった。筋力においては、有意差はみられなかった。

・一般選手との比較

身長と体重で有意な差を示し、また、運動能力においても、立5段跳びと長座投げでその他選手が有意に高値を示した。さらに、総合評価でも有意な差がみられたが、筋力と30m走においては、有意差はみられなかった。

以上のことから、中学NTS男女優秀選手には形態的に大きいことが重要な条件の1つになっていることが示唆された。事実、平成16年度からNTSの選考基準が具体的に提示され、その第1番目の基準として形態が示されている。また、男子においては、投能力と筋力に優れ、かつ、体力の総合評点に優れているが、女子においては、ほとんどの項目で有意差がみられず、筋力のみに優れた結果となった。このことは、形態的に大きい選手が投力や筋力にも優れていることが示唆される。

さらに、その他選手と県選抜選手との体力差がなかったことを考え合わせると、ブロックトレーニングに推薦されるその他選手と優秀選手に体力トレーニングの必要性を示唆するものである。

表1　体力測定結果の平均値比較

| 性 | 分類 | 人数 (名) | 身長 (cm) | 体重 (kg) | 30m走 (秒) | 立5段跳 (m) | 長座投 (m) | 背筋力 (kg) | 握力（左） (kg) | 握力（右） (kg) | 評点50点 (点) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 優秀 | 27 | 175.9* | 64.4 | 4.44 | 11.9 | 24.2** | 150.2* | 46.0 | 47.4 | 34.9* |
| 男子 | その他 | 75 | 171.9 | 60.3 | 4.53 | 11.5 | 21.1 | 129.0 | 41.6 | 41.7 | 28.6 |
| 男子 | 選抜 | 11 | 171.1 | 59.5 | 4.43 | 11.4 | 20.7 | 130.5 | 42.2 | 44.9 | 30.1 |
| 男子 | 一般 | 24 | 162.6 | 50.3 | 4.69 | 9.9 | 14.7 | 110.4 | 34.9 | 37.5 | 18.6 |
| 女子 | 優秀 | 30 | 164.1* | 53.9*** | 5.03 | 10.1 | 15.2 | 89.1 | 31.1 | 40.3* | 34.1 |
| 女子 | その他 | 86 | 160.8 | 52.2 | 5.00 | 9.7 | 13.7 | 82.1 | 29.2 | 33.3 | 29.9 |
| 女子 | 選抜 | 13 | 160.1 | 48.1 | 4.87 | 10.5*☆☆☆ | 14.8 | 84.8 | 28.3 | 30.8 | 34.2☆ |
| 女子 | 一般 | 6 | 153.3 | 44.9 | 4.98 | 9.0 | 10.4 | 88.8 | 26.8 | 30.1 | 23.5 |

優　秀vs選抜　*P＜0.05　**P＜0.01　***P＜0.001
その他vs選抜　☆P＜0.05　☆☆P＜0.01　☆☆☆P＜0.001

**今後の課題**

1. 中学校期においては、走・跳・投の無気的パワートレーニングが必要性である。
2. 小学生と高校生においても同様の検討が必要である。

WHM

## 2005世界選手権（チュニジア）の分析

# ハイスピードハンドボール
## ―さらなる高速化―

国際ハンドボール連盟（IHF）の機関誌であるワールド・ハンドボール・マガジン（WHM：年４回発行）には不定期で世界大会の分析が掲載されます。2005年１号には本年１月に開催された男子世界選手権の分析がIHF（CCM）Dietrich Spate氏により行われ、掲載された。今号では、岡本大氏（国士舘大学）の翻訳により掲載いたします。

翻訳：
岡本 大（国士舘大学）



### オフェンスの分析：1チームの攻撃回数が初めて60回以上に！

2004アテネオリンピック男子（全44試合）における1試合の平均攻撃回数は115.7回で、国際大会においての攻撃回数としては最も多いものであった(WHM-3/2004)。攻撃回数のこれ以上の増加はほとんど不可能であるとその時は考えられていた。ところがチュニジアで開催された2005世界選手権において国際大会レベルの試合のペースは着実に増加し続けていることが示された。

①1試合平均攻撃回数は120.2回でアテネオリンピックと比べ約5回の攻撃回数の増加であった。

②2005世界選手権全86試合における平均攻撃回数は120.2回で、1チームの1試合平均攻撃回数が60回を上回ったのは初めてのことであった（表参照)。

③このことは1回の攻撃が平均で30秒かからずに完結されていることを意味している（1回の攻撃にかかる平均時間は29.9秒)。表で詳細な分析結果をみてみるとトップゲーム（予選リーグと本戦リーグ）は厳しい試合でコントロールできず、その他の試合と比べ攻撃時間がかかっている。

④攻撃回数の分布傾向では、攻撃回数が70回を超える試合が約10%も占めている。

⑤2005世界選手権での最多攻撃回数記録はアンゴラ対デンマーク戦の1チーム74回であった。

⑥攻撃回数が60回以上の試合が全体の50%を超える割合であった。

⑦スペイン対クロアチアの決勝戦も65回の攻撃回数で最もスピーディーな展開の試合の一つであった。

⑧最もスローな展開の試合はノルウェー対エジプト戦であった（ノルウェー51回、エジプト50回)。

| | 試合数 | 1試合の攻撃回数 | 1攻撃回数に要する時間(秒) |
|---|---|---|---|
| 予選リーグ | 60 | 120.9 | 29.8 |
| 本戦リーグ | 18 | 116.4 | 30.9 |
| 準々決勝 | 4 | 127.0 | 28.4 |
| 準決勝・決勝・3決 | 4 | 120.8 | 29.8 |
| トータル | 86 | 120.2 | 29.9 |

※1試合の攻撃回数は60分間で延長時間は含まない

### すばやい攻撃とは単に速攻を意味するわけではない！

一貫して速攻攻撃を繰り出すことだけが攻撃回数の増加の原因ではない。2005世界選手権の分析結果が示すように、ここ2、3年の間に多くの戦術面において質的変化がみられている。

### ボール獲得を目的としたボール中心のディフェンスシステム

近代的で、活動的で、ボール中心のディフェンスシステムの主な目的はボールを獲得することである。相手のプレーがディフェンシブか、オフェンシブかにかかわらず、攻撃陣に可能な限りプレッシャーをかける。戦術的なパスを展開させないように試み、ボール保持者に対し2人のディフェンダーでカバーする。

今日では守備側が数的優位な状況（6対5）では、すばやい速攻へのきっかけとなるディフェンスのボール獲得を目的とした活動はあたりまえである。

### 首尾一貫した速攻

60分間一貫して速攻をおこなうことは、今日のほとんどの試合でみられる特徴である。戦術的な理由から速攻を施行しないチームはごく稀である。例えば、試合開始場面あるいは大事な場面では多くのチームが、チームAが速攻を成功できなかったら、チームBは即座に逆速攻をくりだすといった具合に、相手の速攻に対しても速攻をしかける。

### クイックスタートを時折使用

いくつかのチームはこの世界選手権において、相手チームの不意をつくためや相手チームが選手交代をすることを妨げるためにクイックスタートを使用した。

### 組み立て局面無しのセットオフェンス

今日ではペースやリズムを組織的に変化させるオフェンスが、試合でみられる明確な特徴である。セットオフェンスにおける組み立て局面の時間は、戦術的に、意図的に変化をつけられている。例えば、速攻の後の組み立て局面を簡素化し、意図的に一気に最終局面までプレーを実行する。

また、パッシブプレーのルール解釈が長い時間をかけた組み立て局面を許さない。

## ハイリスクなプレー

手短に言えばこの世界選手権では、過去のどの試合よりも勇敢なプレーを発揮するベストチームらにより、近年みられるリスクのある果敢なプレーをする傾向がより強まった印象である。

①ミスが発生しやすいにもかかわらず、一貫して速攻をしかけ続ける。
②危険を冒し、様々なバリエーションのパスをポストプレーヤーに行う。
③準備や組み立て無しに意表をついてシュートをする。

個人やグループの活動によるオフェンスの特徴は、セットオフェンスにおいてはたいてい以前より短い組み立て局面を経て攻撃が終結していることである。またハイリスクプレーとは、ミスが発生することは計算にいれて、攻撃回数を増加させることでそれを補うことを意味している。

## クイックスローなどの新しい戦術

オリンピックとは異なり世界選手権では、複数のチームが相手チームに得点された後、すばやく攻撃を仕掛ける戦術を明らかに選択していた。しかし今回この戦術は、2003 年の世界選手権のいくつかのチームのそれとは対照的に、一試合中ずっと使用されるのでは無く、後述する場面において使用される戦術であった。

## 速攻の第一波としてのクイックスタート

この戦術は素早いプレーヤーによって仕掛けられるクイックスタートでゴールへの突破を試みるもので、チュニジアやドイツなどいくつかのチームでみられた。この奇襲攻撃は以下の時可能である；

① 1 人のプレーヤー（大概は得点を獲得したプレーヤー）がディフェンスに戻りきれない場面。それゆえに攻撃チームは数的優位の状況を獲得できる。
② OF・DF の選手交代の間の場面。短い時間の数的優位の状況を引き起こす。
③ DF がまだポジションをとりきれてなく、不安定な状態の場面。

写真は準決勝チュニジア対スペイン戦での良い例である。




## 組み立て局面無しにクイックスタートから最終局面まで

クイックスタートから組み立て局面を経ずに攻撃することは相手チームの不意をつく効果がある。またクイックスタートすることは、しばしば相手チームの選手交代を妨げる意図がある。攻撃チームは待ち受けるディフェンスに駆け寄り、準備や組み立てをせずに即座に最終活動にはいる。

## クイックスローからの珍しいオフェンスフォーメーション

いくつかのチームはシュート局面を生み出すために、意図的にクイックスロー後も攻撃を継続することを試みている。いくつかの場面で異なるオフェンスフォーメーションが行われた（例えばダブルポスト）。ノルウェーが面白いバリエーションを見せた。最も遠くに走りこむポストやサイドプレーヤーがクイックスローを行う間に、短い時間 4 人のプレーヤーをバックコートに配置した。

## 速攻から直ちにセットオフェンスを開始

今日の素早いプレーの重要な特徴は、ディフェンスからボールをできる限り迅速にコート中央エリアまで運び、すでに形成されているがまだ完全に活動状態に入りきれていないディフェンス組織に対し、継続して即座にセットオフェンスを開始することである。ディフェンスがディフェンスポジションに戻るがしばしば完全に機能できない主な理由は；

①敏速な反撃で、ディフェンダーが自分の本来の DF ポジションに位置させないため。
②ディフェンスにおいて通常の活動的な行動を可能にする準備をさせないため。
③ DF のスペシャリストを交代させないため。

このため、攻撃が素早く意図的に組み立て局面をとばして攻撃している場面がよく見られた。

## 平成17年度全国高等学校総合体育大会

# 高松宮記念杯　第56回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

## 男子の部

優勝・興南高校

### Teams (left side of bracket)

興南高校（沖縄）
県立柏崎高校（新潟）
育英高校（兵庫）
明星高校（東京）
県立広高校（広島）
県立岐阜北高校（岐阜）
県立鹿児島工業高校（鹿児島）
学法石川高校（福島）
県立江津高校（島根）
県立紀北農芸高校（和歌山）
県立岡豊高校（高知）
二松学舎大学附属沼南高校（開催地）
県立境港総合技術高校（鳥取）
県立不来方高校（岩手）
県立香川中央高校（香川）
県立福岡魁誠高校（福岡）
國學院大學栃木高校（栃木）
桃山学院高校（大阪）
県立青森中央高校（青森）
愛知高校（愛知）
長崎日本大学高校（長崎）
北海道札幌月寒高校（北海道）
駿台甲府高校（山梨）
北陸高校（福井）

### Teams (right side of bracket)

浦和学院高校（埼玉）
県立小松工業高校（石川）
静岡市立清水商業高校（静岡）
県立斑鳩・片桐・法隆寺国際高校（奈良）
県利府高校（宮城）
熊本国府高校（熊本）
県立鳴門高校（徳島）
県立下松工業高校（山口第1）
市川高校（千葉）
県立大分舞鶴高校（大分）
県立東根工業高校（山形）
高岡向陵高校（富山）
県立佐賀農業高校（佐賀）
県立彦根東高校（滋賀）
県立富岡高校（群馬）
県屋代高校（長野）
県立湯沢高校（秋田）
法政大学第二高校（神奈川）
県立藤代紫水高校（茨城）
県立総社高校（岡山）
県立四日市四郷高校（三重）
府立向陽高校（京都）
県立今治西高校（愛媛）
県立小林工業高校（宮崎）

### Results

| Match | Score |
|---|---|
| 県立柏崎 – 育英 | 21 – 32 |
| 興南 – 育英 | 36 – 19 |
| 明星 – 県立広 | 32 – 18 |
| 明星 – 県立岐阜北 | 23 – 27 |
| 興南 – 県立岐阜北 | 40 – 12 |
| 学法石川 – 県立江津 | 31 – 17 |
| 県立鹿児島工業 – 学法石川 | 27 – 28 |
| 県立紀北農芸 – 県立岡豊 | 28 – 18 |
| 県立紀北農芸 – 二松学舎大学附属沼南 | 28 – 32 |
| 学法石川 – 二松学舎大学附属沼南 | 27 – 17 |
| 興南 – 学法石川 | 49 – 20 |
| 県立不来方 – 県立香川中央 | 27 – 25 |
| 県立境港総合技術 – 県立不来方 | 12 – 35 |
| 県立福岡魁誠 – 國學院大學栃木 | 31 – 19 |
| 県立福岡魁誠 – 桃山学院 | 24 – 29 |
| 県立不来方 – 桃山学院 | 25 – 18 |
| 愛知 – 長崎日本大学 | 30 – 23 |
| 県立青森中央 – 愛知 | 13 – 43 |
| 北海道札幌月寒 – 駿台甲府 | 24 – 30 |
| 駿台甲府 – 北陸 | 26 – 31 |
| 愛知 – 北陸 | 40 – 32 |
| 県立不来方 – 愛知 | 31 – 25 |
| 興南 – 県立不来方 | 34 – 25 |
| 県立小松工業 – 静岡市立清水商業 | 26 – 20 |
| 浦和学院 – 県立小松工業 | 31 – 25 |
| 県立斑鳩・片桐・法隆寺国際 – 県利府 | 20 – 25 |
| 県利府 – 熊本国府 | 28 – 34 |
| 浦和学院 – 熊本国府 | 30 – 29 |
| 県立下松工業 – 市川 | 25 – 30 |
| 県立鳴門 – 市川 | 10 – 42 |
| 県立大分舞鶴 – 県立東根工業 | 19 – 22 |
| 県立東根工業 – 高岡向陵 | 20 – 25 |
| 市川 – 高岡向陵 | 31 – 21 |
| 浦和学院 – 市川 | 26 – 33 |
| 県立彦根東 – 県立富岡 | 22 – 34 |
| 県立佐賀農業 – 県立富岡 | 14 – 43 |
| 県屋代 – 県立湯沢 | 17 – 24 |
| 県立湯沢 – 法政大学第二 | 17 – 40 |
| 県立富岡 – 法政大学第二 | 22 – 38 |
| 県立総社 – 県立四日市四郷 | 18 – 26 |
| 県立藤代紫水 – 県立四日市四郷 | 34 – 23 |
| 府立向陽 – 県立今治西 | 28 – 17 |
| 府立向陽 – 県立小林工業 | 20 – 24 |
| 県立藤代紫水 – 県立小林工業 | 28 – 31 |
| 法政大学第二 – 県立小林工業 | 17 – 31 |
| 市川 – 県立小林工業 | 23 – 32 |
| 興南 – 県立小林工業 (決勝) | 36 – 27 |

平成17年度全国高等学校総合体育大会

# 高松宮記念杯　第56回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

## 女子の部

**優勝・府立洛北高校**

| 左ブロック | 右ブロック |
|---|---|
| 県立陽明高校（沖縄） | 県立吉井高校（群馬） |
| 高水高校（山口） | 県屋代高校（長野） |
| 県立彦根翔陽高校（滋賀） | 県立北大和・奈良北高校（奈良） |
| 県立千葉商業高校（開催地） | 県立松江南高校（島根） |
| 県立青森西高校（青森） | 県立大分鶴崎高校（大分） |
| 県立高松商業高校（香川） | 県立不来方高校（岩手） |
| 筑紫女学園高校（福岡） | 日本大学山形高校（山形） |
| 県立加茂高校（広島） | 県立飛騨高山高校（岐阜） |
| 県立水海道第二高校（茨城） | 佐賀女子短大付属佐賀女子高校（佐賀） |
| 暁高校（三重） | 県立岡豊高校（高知） |
| 夙川学院高校（兵庫） | 府立洛北高校（京都） |
| 県立巻高校（新潟） | 県立横浜南陵高校（神奈川） |
| 桜花学園高校（愛知） | 県立境高校（鳥取） |
| 熊本国府高校（熊本） | 昭和学院高校（千葉） |
| 初芝橋本高校（和歌山） | 県立佐世保商業高校（長崎） |
| 聖和学園高校（宮城） | 県立大曲農業高校（秋田） |
| 高岡広陵高校（富山） | 県立栃木商業高校（栃木） |
| 県立山梨高校（山梨） | 県立池田高校（徳島） |
| 県立松山北高校（愛媛） | 静岡市立清水商業高校（静岡） |
| 県立郡山東高校（福島） | 浦和実業学園高校（埼玉） |
| 小松市立高校（石川） | 北海道札幌月寒高校（北海道） |
| 県立鹿児島南高校（鹿児島） | 宮崎学園高校（宮崎） |
| 県立玉野光南高校（岡山） | 県立福井商業高校（福井） |
| 白梅学園高校（東京） | 四天王寺高校（大阪） |

| 対戦 | スコア |
|---|---|
| 高水 − 彦根翔陽 | 27 − 22 |
| 陽明 − 高水 | 27 − 24 |
| 千葉商業 − 青森西 | 16 − 19 |
| 青森西 − 高松商業 | 23 − 20 |
| 陽明 − 青森西 | 34 − 14 |
| 加茂 − 水海道第二 | 15 − 33 |
| 筑紫女学園 − 水海道第二 | 27 − 19 |
| 暁 − 夙川学院 | 24 − 18 |
| 暁 − 巻 | 49 − 10 |
| 筑紫女学園 − 暁 | 23 − 23（7mtc 3−1） |
| 陽明 − 暁 | 33 − 18 |
| 熊本国府 − 初芝橋本 | 24 − 14 |
| 桜花学園 − 熊本国府 | 27 − 18 |
| 聖和学園 − 高岡広陵 | 9 − 23 |
| 高岡広陵 − 山梨 | 38 − 16 |
| 桜花学園 − 高岡広陵 | 19 − 26 |
| 郡山東 − 小松市立 | 22 − 26 |
| 松山北 − 小松市立 | 17 − 28 |
| 鹿児島南 − 玉野光南 | 19 − 25 |
| 玉野光南 − 白梅学園 | 29 − 35 |
| 小松市立 − 白梅学園 | 25 − 26 |
| 高岡広陵 − 白梅学園 | 18 − 25 |
| 陽明 − 白梅学園 | 22 − 20 |
| 屋代 − 北大和・奈良北 | 13 − 24 |
| 吉井 − 北大和・奈良北 | 30 − 19 |
| 松江南 − 大分鶴崎 | 7 − 47 |
| 大分鶴崎 − 不来方 | 23 − 25 |
| 吉井 − 不来方 | 31 − 21 |
| 飛騨高山 − 佐賀女子短大付属佐賀女子 | 33 − 19 |
| 日本大学山形 − 飛騨高山 | 13 − 32 |
| 岡豊 − 洛北 | 9 − 64 |
| 洛北 − 横浜南陵 | 23 − 17 |
| 飛騨高山 − 洛北 | 18 − 19 |
| 吉井 − 洛北 | 17 − 29 |
| 昭和学院 − 佐世保商業 | 30 − 18 |
| 境 − 昭和学院 | 7 − 36 |
| 大曲農業 − 栃木商業 | 24 − 22 |
| 大曲農業 − 池田 | 37 − 17 |
| 昭和学院 − 大曲農業 | 25 − 14 |
| 浦和実業 − 札幌月寒 | 34 − 16 |
| 清水商業 − 浦和実業 | 20 − 24 |
| 宮崎学園 − 福井商業 | 14 − 17 |
| 福井商業 − 四天王寺 | 18 − 30 |
| 浦和実業 − 四天王寺 | 18 − 25 |
| 昭和学院 − 四天王寺 | 17 − 16 |
| 洛北 − 昭和学院 | 28 − 22 |
| 決勝　陽明 − 洛北 | 21 − 25 |

## がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】駒林昭三　【宮城】大河原浩気　【茨城】増田　徹　【千葉】鈴木秀義　【東京】遠藤　稔、遠藤順子、佐藤佳子　【神奈川】南木雅弘、久保弘毅　【山梨】栗原富貴子　【長野】後藤政俊　【静岡】坂東廣一　【愛知】笹野邦雄、熊田祐子、川島祥子、西村香代子　【三重】山川敬止　【岐阜】中島明美　【京都】吉田博二、尾川善信　【大阪】望月伸三郎、舟崎智芳、久保幸子、亀石正人　【兵庫】柿木國夫、新坂智子、大西三千男　【広島】木下しのぶ、山手文雄、青戸克好、両徳良樹　【愛媛】河本武夫　【福岡】伊藤康雄

## 【10月の行事予定】

**【会議】**……………………………………………………………

10月22日（土）　全国理事長会（岡山県）

10月23日（日）　常務理事会（岡山県）

**【大会】**……………………………………………………………

10月22日（土）～27日（木）

第60回国民体育大会（岡山県津山市、鏡野町、真庭市）

### 機関誌編集専門委員会より

夏の全国大会も盛況のうちに幕を閉じました。（財）日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」では記録性重視の観点から全国大会の記録に関しましては順次掲載していきます。しかしながら、紙面の都合上掲載順、掲載時期に遅れが生じますことをご了承下さい。

（機関誌編集専門委員会記）

## HAND BALL CONTENTS Oct



（登録チームの購読料は登録料に含む）

# 高いグリップ力を実現！
# ミカサの人工皮革ハンドボール







## HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般・大学・高校)

## HVN200

検定球2号、人工皮革
女子(一般・大学・高校)・中学校

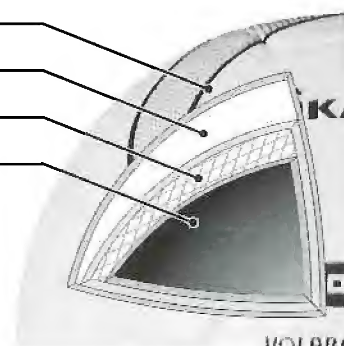
## HVN300/HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます




MIKASA®
SPORTS EVERY DAY!

株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四六四号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成十七年九月二十六日印刷
平成十七年十月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円